

▶ Commvault® を使った SAP HANA® バックアップ/リカバリ ソリューション

SAP HANA Backintと連携し、バックアップ データの外部保管も可能に

▶ SAP HANA標準のDumpを使った バックアップ/リカバリ運用の課題

SAP HANA環境は、標準で備えられているDumpを使ってバックアップすることができますが、下記のような課題に 대응することはできません。

- バックアップ容量の削減
- バックアップ データのセキュリティ
- DRサイトでのデータ保管

▶ Commvaultがもたらす8つのメリット!

Commvaultソフトウェアは、シングル ノード環境からマルチ ノード環境まで、様々な規模のSAP HANAにシンプルなバックアップ/リカバリ ソリューションを提供することができます。

Commvaultは、ContentStoreと呼ばれる仮想レポジトリに、保護したデータを重複排除して保存することができるので、バックアップしたSAP HANAのデータ保存容量を削減し、ストレージを無駄なく使用することができます。また、データはすべて暗号化できるので、ディスク、テープ、クラウドなどの外部ストレージへ保存する際も安心です。

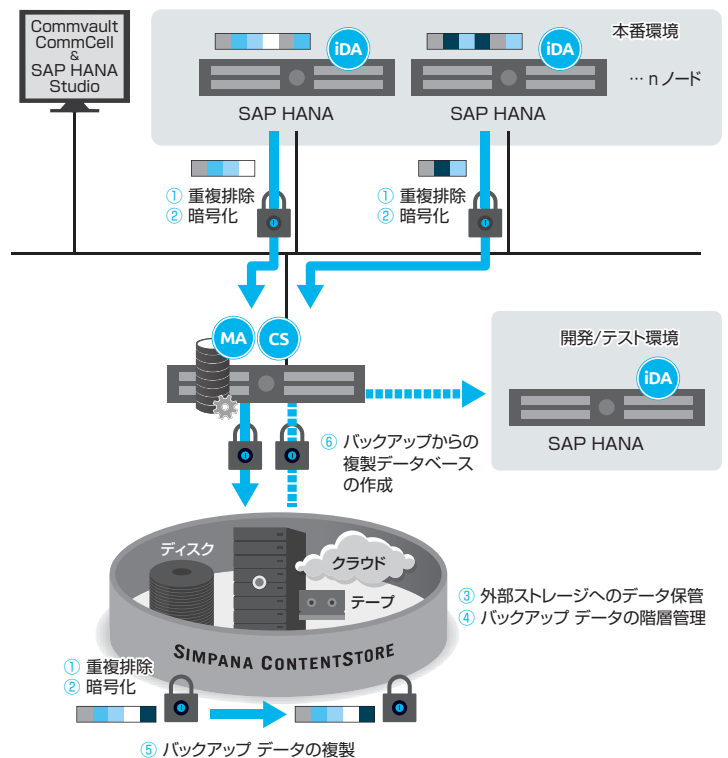
Commvaultを導入することで、SAP HANAのデータ保護に下記メリットをもたらします。

- ① 重複排除によるバックアップ データ容量の削減
 - ② バックアップ データの暗号化
 - ③ テープやクラウドなど外部ストレージへのデータ保管
 - ④ バックアップ データの階層管理
 - ⑤ 遠隔地 (DRサイト) へのバックアップ データの複製
 - ⑥ バックアップ イメージを使用した複製データベースの作成
 - ⑦ SAP HANA Studioとの統合
 - ⑧ 他アプリケーション製品のバックアップも含めた統合管理
- 詳細は次ページでご覧いただけます。



SAP® Certified
Integration with SAP HANA®

- ⑦ SAP HANA Studioとの統合
- ⑧ 他製品もまとめてデータ保護/管理



Commvault用語

- CS (CommServe): Commvaultの統合管理サーバーです。CommCell管理コンソールから、Commvaultの全機能の設定と管理が行えます。
- MA (MediaAgent): バックアップ対象クライアントから送られたデータを、さまざまなストレージへ保管します。
- iDA (Intelligent Data Agent): バックアップ/リストア対象とするクライアント上にインストールするエージェント モジュールです。SAP HANAには、SAP HANA iDAを使用します。

▶ Commvaultについて

Commvaultは、データのバックアップ/リカバリから、レプリケーション、アーカイブ、検索/分析まですべての機能をひとつのソフトウェア製品で提供することができる統合データ管理ソフトウェアです。物理/仮想化サーバからクライアントPCまで、企業中のさまざまなデータの保護/管理にご利用いただけます。

▶ Commvaultがもたらす8つのメリット!

① 重複排除によるバックアップ データ容量の削減

バックアップ時、データの重複ブロックを見つけ、排除し、未取得のブロックのみを書き込むことで、バックアップ データの容量を最小限に抑え、ディスクの効率的な使用を可能にします。

一般的に、重複排除にはターゲット側とソース側の2つの手法がありますが、Commvaultはどちらの手法にも対応しています。ターゲット側 (= MediaAgent/ストレージ側) で重複排除すれば、SAP HANAが稼働するサーバーのCPU使用率を下げることができます。ソース側 (= SAP HANA側) で重複排除すれば、ユニークなブロックのみを転送することができ、バックアップ時のネットワークトラフィックを削減することができます。

② バックアップ データの暗号化

Commvaultは、データを暗号化してネットワーク上に転送することも、データを暗号化してストレージに保存することも可能です。Commvaultの暗号化キー管理スキームは非常に柔軟なので、様々な構成でデータの暗号化機能を利用することが可能です。

③ テープやクラウドなど外部ストレージへのデータ保管

ハードウェア障害や自然災害、人為的ミス、データ破損等によりデータが損失した場合は、バックアップしたデータとログ ファイルを、バックアップ ストレージから直接SAP HANAにリストアしてシステムを復旧することができます。

④ バックアップ データの階層管理

Commvaultで管理するデータはすべて、ContentStoreと呼ばれるひとつの仮想レポジトリに保護されます。ContentStoreのストレージには、ディスク、テープ、クラウドを使用することができ、ユーザーが設定したポリシーに従って、より安価なストレージへと、自動でデータを移動していくことが可能です。

⑤ 遠隔地DRサイトへのバックアップ データの複製

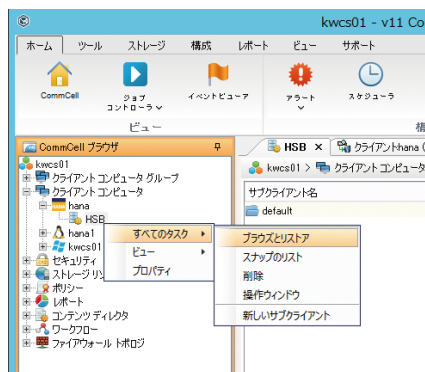
DR (ディザスタリカバリ) 対策として、ローカル サイトのデバイスにバックアップしたデータを、遠隔地のDRサイトへ自動的に複製することができます。この際Commvaultなら、バックアップ データを重複排除したままりモート サイトに転送することができるので、ネットワーク負荷とストレージ使用量を最小限に抑えることができます。

⑥ バックアップ イメージを使用した複製データベースの作成

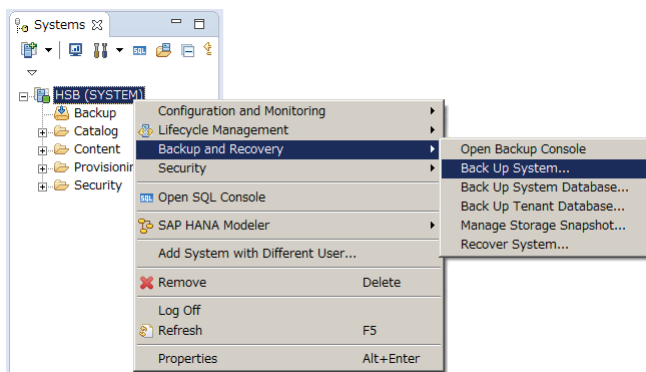
テスト/開発環境等でデータベースのクローンが必要になった時、バックアップ イメージを使ってSAP HANAデータベースのコピーを作成することができます。

⑦ SAP HANA Studioとの統合

SAP HANA Studioは、HANAデータベースをバックアップ/リカバリする際に使用される最も一般的なインターフェイスです。Commvault GUIからの管理だけでなく、SAP HANA Studio のBackup and RecoveryメニューのからBack Up SystemもしくはRecover Systemを実行することで、SAP HANA Studioから直接、Commvaultを使ったバックアップ/リカバリを実行することが可能です。



Commvaultからの管理画面



SAP HANA Studioからの管理画面

⑧ 他アプリケーション製品のバックアップも含めた統合管理

Commvaultは、SAP HANAをはじめとするさまざまなアプリケーションのオンライン バックアップに対応しています。SAP用のバックアップ エージェント以外にも、Oracle、SQL、Exchange他多数のアプリケーション用バックアップ エージェントを提供しています。Commvaultを使用することで、複数のアプリケーションが混在する環境でも、ひとつのCommvault GUIでまとめてデータ保護/管理が行えます。

Commvault対応 データベース/アプリケーション

- ・ SAP Standalone HANA
- ・ SAP Business Suite powered by SAP HANA
- ・ SAP S/4HANA

Commvault対応システム構成

- ・ シングル ノード
- ・ マルチ ノード
- ・ HANAシステム レプリケーション
- ・ HANA High Availability